

脱炭素化など課題解決で新局面 気候変動の緩和や強靱化へ対策推進

空条 円
Madoka Kujo

俳句や連歌などで用いられる季節。四季の移り変わりが鮮やかな日本の風土の中で、その時々々の季節を指し示す言葉は数多い。土地の気候や景観、動植物、人々の生活や文化に深く関わる四季折々の営みなど、幅広い事象が季節に取り上げられる。単に文学的な意味合いにとどまらず、日本文化の醸成と合わせるように季節の語群も広がった。日本人が四季の変化を大切にしてきた証でもある。

桜の開花やイチヨウの落葉、ウグイスやアブラゼミの初鳴き、ツバメやホタルの初見など、春夏秋冬それぞれの季節到来を感じさせてくれる。

桜の開花やイチヨウの落葉、ウグイスやアブラゼミの初鳴き、ツバメやホタルの初見など、春夏秋冬それぞれの季節到来を感じさせてくれる。

生物や現象は多種多様。昔から人々の暮らしの身近にあり、季節の変わり目をいち早く伝えてくれる。

気象庁が一九五三年に全国統一の観測方法で開始した「生物季節観測」。季節の遅れ進み、気候の違いや変化を的確にとらえることを目的とし、観測データは地球温暖化など長期的な気候変動の指標にも活用。例えばクマゼミは主に近畿以南に生息していたが、現在は北限が関東付近まで移動しているそうだ。

昨年一月時点で全国の気象台・測候所五八地点で植物三四種目、動物二三種目が観測対象だった。近年は気象台・測候所周辺の生

域上空の水蒸気量データを取り込んだり、世界最高性能のスーパーコンピュータを利用したりすることで、予測精度が上がるとの研究結果を昨年十一月に発表。一連の調査・分析手法の実用化により、豪雨の間帯や場所を正確に予測し、迅速な避難活動など防災・減災対策への活用が期待される。

気象庁と文部科学省が翌月に公表した報告書「日本の気候変動二〇二〇」では、日本の気候が地球温暖化で今世紀末にどう変わるかを、二種類の気温上昇シナリオ別に予測。どちらの場合も猛暑や大雨が増え、温室効果ガスの排出を削減する緩和策に努めなければ、災害発生リスクが更に高まる見通しが示された。

シナリオの一つは、温暖化対策の国際的枠組み「パリ協定」の目標を達成し、二十一世紀末の世界平均気温が産業革命前に比べて約二度上昇。もう一方は、現時点を超える追加的な緩和策を取らず、約四度

態環境が変化。植物の季節観測は適切な場所での標本木の確保が、動物では対象種目を見つけることが難しくなった。こうした現状を踏まえ、二〇二二年一月からは動物の季節観測をすべて廃止し、植物は桜の開花・満開など六種目九現象に減らした。地球温暖化など気候の長期変化や一年を通じた季節の変化と遅れ進みを、全国的に把握することに適した代表的なものに観測対象を絞った。

気象データ積極活用
防災情報の発信高度化

気象データ積極活用
防災情報の発信高度化

七一以上がり、浸水災害のリスクが高まると指摘する。

野心的イノベーション支援 持続可能な社会創出へ

野心的イノベーション支援
持続可能な社会創出へ

野心的イノベーション支援
持続可能な社会創出へ

従来の生物季節観測の種目・現象の見直しは、これまで当たり前のように身近にあった自然環境が大きく様変わりしたことを意味する。温暖化の影響とされる気候変動も、地域の生態環境の変化に深く関わっていると見られる。

気候変動に伴う自然災害の激甚化・頻発化が指摘される中、防災・減災につながる気象データなど関連情報の重要性は一段と高まっている。気象庁の気象研究所は熊本県・球磨川の氾濫といった甚大な被害を引き起こした昨年七月の豪雨をモデルに、防災関連の情報発信の高度化に取り組む。九州南西海

気候変動に伴う自然災害の激甚化・頻発化が指摘される中、防災・減災につながる気象データなど関連情報の重要性は一段と高まっている。気象庁の気象研究所は熊本県・球磨川の氾濫といった甚大な被害を引き起こした昨年七月の豪雨をモデルに、防災関連の情報発信の高度化に取り組む。九州南西海

投資のため二兆円規模の基金を創設し、脱炭素化で革新的な研究開発を行う企業支援を盛り込んだ。菅首相は「野心的イノベーションに挑戦する企業を今後一〇年間継続して支援していく」と強調した。

異常気象の原因とされる温暖化を食い止める対策を進める一方、頻発する自然災害への対応も待ったなしだ。来年度から本格展開する政府の「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」では、風水害や大規模地震への備え、インフラの老朽化対応など計一二三項目の対策に重点的に取り組み、総事業費は約一五兆円に上る。

二〇二一年の干支は「辛丑」。植物の一生でたとえろと、辛は「草木が枯れ、新しくなろうとしている状態」、丑には「種から芽が出ようとする状態」という意味があるそうだ。持続可能な社会の創出に向け、建設産業も様々な課題解決へ新たな局面を迎えることになる。